

■効果の見える治水事業

高知県 野根海岸の高潮対策事業

高知県安芸土木事務所
室戸事務所 所長 中内 修二



野根海岸は、高知県東部の徳島県との境に隣接した東洋町に位置し海部灘に面した海岸で、海岸保全区域として野根川の河口西から1,532m区間を指しています。

海岸の直背後には県東部唯一の幹線道路である国道55号が併走しており、国道と水田・山に囲まれるように人家が密集しており、野根海岸は防災上重要な海岸として位置づけられています。

野根海岸は台風時の砂の移動が激しく、背後地への越波被害が発生するようになったため、昭和60年から平成2年にかけて、越波被害の激しかった中央部に消波堤を設置し、被害の軽減を図りましたが、その後も越波被害が発生したため、平成3年から離岸堤施工に着手しました。

平成9年の台風9号では越波により家屋が破損するなどの被害があり、その後も平成13年の台風11号においても広範囲に越波被害が発生したため、背後の住民は台風時に自主的に避難せざるを得ないようになりました。

また、越波により国道55号が通行止めになるなどライフラインにも影響を及ぼしたことから、背後地住民の生命、財産を守るため、及び国土保全の観点から平成15年に新たな全体計画を策定し、更なる離岸堤に着手しました。

離岸堤は、平成3年から昨年度までに総事業費2,354,600千円を投入し、砂浜を回復させるとともに背後への越波被害の減少をはかるべく平成20年度も引き続き整備を実施します。

- ・整備内容
- 離岸堤 L=150m×2基
- ・防護面積 29.7ha
- ・防護人口 552人



台風前地盤 台風後地盤 復旧完了

1回の台風で5m以上侵食され、施設が被災しました。(H17の台風14号)

安全安心のまちをめざして

東洋町長 澤山 保太郎



東洋町は高知県の最東端に位置し、北部は徳島県海陽町、南部は室戸市に隣接し、室戸阿南海岸国定公園のほぼ中央にあり、輝く海に面した東西14km、清流野根川沿いの南北16kmで、面積は74.10km²に及び、全面積の約86%が山林で自然豊かな町です。甲浦港は、古くから天然の良港として恵まれ、高知県東部海岸で唯一の避難港であるとともに、東の玄関口でもあります。古くは、国司・紀貫之着任の際の寄港地に始まり、藩主・山内一豊公上陸地としても知られています。

本町は、太平洋に面する海岸丘陵地帯であり、ポンカン栽培、清流野根川沿いの平野部では稲作が盛んで、甲浦港を基地とする鰹の一本釣り、鮪延縄の沿岸・近海漁業、野根漁港を基地とする定置網や建網漁業が盛んです。

また、白砂青松の美しい砂浜が広がる白浜海岸は四国屈指の遠浅のビーチで四季を通じ、県内外から訪れる人々の心を穏やかにし、海水浴は勿論のこと、キャンプ場としても最適で、一年を通じて多くの人々が訪れています。

さらに、役場の目の前に広がる生見海岸は、全国屈指のサーフポイントとして知られており、関西圏を中心に県内外の若者に人気を博し、一年を通して9万人ほどの若者たちが訪れ賑わっています。

加えて、美しい海を育てる清流野根川では、鮎をはじめとする生物が元気に泳ぎ、穏やかな流れのなか、流域の自然と多くのポイントの連続する川相とがうまく調和し、ゆったりと鮎釣りなどが楽しめます。

また、総延長35kmの緑豊かな参勤交代の道、野根山街道など歴史ロマンに触れることが出来る町です。

他方、野根海岸は台風時の砂の移動が激しく、高波が打ち寄せると防潮堤を越えるため、台風の際、消防団などが緊急体制を取り、背後地にある国道55号沿いの民家前などに土のうを積んで災害に備え、住民は自主的に避難を行うなど、自然の猛威の前には、なすすべがない状況です。

そのため、越波により国道55号が通行止めになる場合もあり、その際の迂回路となる県道は未改良区間が長く、大型車輛の通行が不可能になるなど、住民生活にも多大な影響を及ぼしています。

さらに、落石や山手崩壊が多く発生する路線でもあり、こうした被害から背後地住民の生命、財産を守るために、安全安心のまちづくりを進め、現計画の早期完成及び離岸堤の追加施工が必要と考える次第です。



生見海岸



国道への越波



迂回路の山手崩壊



越波対策で土嚢を設置